

令和5年度(2023年度)東海市健康づくり推進会議 第1回会議次第

日時：令和5年(2023年)7月27日(木)

午後2時から4時

場所：しあわせ村 多目的ホール

1 開会

2 市民憲章

3 委員自己紹介

4 事務局職員紹介

5 会長及び職務代理者の選出

6 議題

(1) 第2次東海市健康増進計画の評価について

ア 評価シート

Aグループ：評価シート4-1①②③

Bグループ：評価シート4-2①②③

Cグループ：評価シート4-3、4-4、4-5

イ 意見共有

7 その他

(1) トマト de 健康フェスティバル事業について 7月1日(土)～8月31日(木)

(2) 第3次健康増進計画策定スケジュールについて

(3) 今後の会議予定 第2回：10月30日(月)、第3回：令和6年2月15日(木)

8 閉会

いきいき元気推進プラン 指標の現状値一覧

●総合計画指標

指標	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	R2	R3	R4	めざす方向	算出方法	
1:健康寿命●	男性	78.55	78.55	78.89	79.45	79.72	79.78	79.90	80.01	80.39	80.27	80.32	↑	厚生労働省研究班の指針に基づき、人口、死亡数、不健康割合の分母、不健康割合の分子を使用して算出。現状値は、人口(平成21年度から23年度までの合計)、死亡数(平成21年度から23年度までの合計)、不健康割合の分母(平成22年度の人口)、不健康割合の分子(平成22年度の要介護2～5の認定者数)を使用。
	女性	82.77	82.28	82.53	82.69	82.83	83.13	83.64	83.95	84.24	84.25	84.36		
2:健康づくりの取り組みをしている人の割合●		49.9	55.6	56.5	55.8	54.5	57.2	57.2	55.9	56.0	60.3	56.4	↑	総合計画の市民アンケートで「はい」と回答した人の数/アンケート回答総数×100【】

項目	施策	指標	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	R2	R3	R4	めざす方向	算出方法	
4-1 健康の大切	① ② 自分の体をメンテナンスできる人を増やす 壮年期をがんから守る	3:年に1回は健康診断を受けている人の割合●	72.8	71.4	75.2	76.0	74.6	77.1	75.1	75.5	76.1	78.4	78.4	↑	総合計画の市民アンケートで「はい」と回答した人の数/アンケート回答総数×100	
		4:生活習慣改善に取り組んでいる人の割合	30.0	26.2	25.7	25.9	26.5	26.8	29.8	29.7	28.1	30.0	29.5	↑	東海市特定健康診断問診で「生活習慣の改善取り組み済み」の人の数/特定健康診断受診者数×100	
		5:がん検診受診率	胃がん	7.8	9.6	9.1	10.5	10.2	10.2	8.4	7.4	6.1	6.5	7.2	↑	東海市の各種がん検診受診率
			乳がん	11.4	18.6	18.6	22.3	24.4	24.9	21.9	22.4	17.3	20.9	22.1	↑	
	子宮頸がん		16.1	19.4	20.3	21.8	24.2	23.1	24.7	20.6	16.8	19.0	20.2	↑		
	6:がん精密検査受診率	胃がん	81.7	73.1	86.4	75.7	77.2	70.4	74.4	71.2	71.9	81.7	76.9	↑	東海市のがん検診受診後の精密検査対象者のうち、各種精密検査受診者数/各種精密検査対象者数×100	
		乳がん	90.3	89.5	88.0	85.4	86.6	78.9	84.3	87.1	81.2	79.6	88.4	↑		
		子宮頸がん	67.9	43.8	60.7	57.4	84.3	49.3	42.6	50.6	75.9	85.8	90.0	↑		
	③ おいしく食べ、おもいきり笑えるお口をつくる	7:中学生の歯肉炎の罹患率	6.1	4.0	5.2	4.3	3.3	3.6	2.4	2.5	4.4	5.4	3.5	↓	学校保健統計(東海市学校保健部会発行)から「歯肉の状態」データ数	
		8:8020達成者割合	11.6	9.9	13.2	12.6	14.8	12.8	16.5	17.7	13.1	14.7	15.4	↑	当該年度80歳到達者のうち、8020表彰の受賞者数/当該年度80歳到達者数×100。愛知県は「あいち新計画」より。	
4-2 運動・身体活動	① 体を動かすことの楽しさを知る機会を増やす	9:健康づくりでウォーキングなどの運動に取り組んでいる人の割合●	男性	37.2	35.3	37.9	37.0	38.1	36.5	36.1	40.9	37.6	41.9	38.8	↑	総合計画の市民アンケート「現在、健康づくりの取り組みをしている」で「はい」と回答した人のうち、取り組みとして「ウォーキングなどの運動」と回答した人の数/アンケート回答総数×100
		女性	27.7	28.8	26.9	26.9	23.5	27.6	28.9	29.3	30.9	30.7	30.9	↑		
		10:1回30分以上の運動を週2回以上1年以上実施している人の割合	40～64歳	28.4	30.5	29.3	29.2	28.7	27.8	27.2	29.1	24.3	28.0	29.2	↑	
	65歳以上	49.3	51.4	50.3	48.5	51.6	47.4	46.4	47.1	43.3	45.3	44.6	↑			
	② 運動に取り組みやすい場を充実する	11:市内の施設や環境が健康づくりに取り組みやすいと感じている人の割合●	男性	56.1	59.9	62.2	59.1	58.4	63.3	62.8	61.3	63.7	63.6	64.0	↑	総合計画の市民アンケートで「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した人の数/アンケート回答総数×100
		女性	62.5	66.7	63.9	67.2	62.5	66.7	68.9	68.7	70.0	67.3	65.2	↑		
	③ グループ(企業・団体)活動を推進する	12:運動ステーションの数と利用者数●	箇所数	4	5	5	5	5	5	5	5	6	6	6	↑	運動ステーションの設置数
			利用者数	-	108,822	130,689	146,864	148,444	146,869	140,784	133,112	71,616	89,053	117,800	↑	運動ステーションの延利用者数
		13:市と連携して健康づくりに取り組む市民団体数・企業数	市民団体数	-	-	-	-	-	-	-	8	4	4	7	↑	市と連携して市民等を対象としたウォーキングイベントを実施した市民団体数
			企業数	-	-	-	-	-	-	-	8	6	6	7	↑	市と連携して従業員の健康づくりに取り組んだ(いきいき元気キャンペーンに参加した)企業数
14:1年間に地域や会社のウォーキングイベントや健康教室に参加したことのある人の割合●	12.4	12.7	14.5	14.1	14.3	14.9	13.1	15.4	9.5	11.0	10.1	↑	総合計画の市民アンケートで「はい」と回答した人の数/アンケート回答総数×100			
4-3 食生活	① 適量やバランスを意識する機会を増やす	15:健康づくりで食事の量やバランスなど食生活の改善に取り組んでいる人の割合●	26.3	29.6	29.5	29.9	29.8	30.1	31.3	27.9	30.9	31.5	28.4	↑	総合計画の市民アンケート「現在、健康づくりの取り組みをしている」で「はい」と回答した人のうち、取り組みとして「量やバランスを意識した食事」と回答した人の数/アンケート回答総数×100	
		16:食生活ステーションの数と提供メニュー数●	箇所数	23	31	35	36	33	33	34	32	34	31	30	↑	食生活ステーションの設置数
			メニュー数	35	44	52	48	41	37	49	44	54	51	53	↑	いきいき元気メニューとして認定し、市内の食生活ステーションで提供しているメニュー数
4-4 ふれあい	① 交流の場・活動の場を充実する	17:地域活動や市民活動を身近に感じている人の割合●	48.0	50.0	51.4	48.4	49.0	50.0	51.1	47.9	45.6	46.1	42.4	↑	総合計画の市民アンケートで「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した人の数/アンケート回答総数×100	
		18:困った時に悩みを相談できる人が身近にいる人の割合	男性	75.1	75.6	75.9	77.0	77.7	78.1	74.5	80.6	80.4	77.4	76.8	↑	総合計画の市民アンケートで「はい」と回答した人の数/アンケート回答総数×100
			女性	90.7	88.5	87.9	90.1	89.7	89.4	85.7	89.7	93.1	91.3	87.5	↑	
4-5 次世代の健康	① 規則正しい生活習慣を身につける	19:午後9時前に就寝する幼児の割合	1歳6か月	28.4	30.6	33.3	31.8	29.6	31.5	27.7	32.9	32.9	42.0	42.6	↑	1歳6か月児健康診査、または3歳児健康診査の間診より、各健康診査での午後9時前に就寝する幼児の数/各健康診査受診者数×100
			3歳	25.9	23.2	26.6	28.1	24.7	26.6	24.2	21.9	25.3	22.6	22.8	↑	
		20:朝食を食べている幼児の割合	1歳6か月	95.3	96.1	96.7	95.5	95.8	97.0	95.9	96.6	96.2	96.6	96.8	↑	1歳6か月児健康診査、または3歳児健康診査の間診より、各健康診査での朝食を食べている幼児の数/各健康診査受診者数×100
			3歳	94.8	94.2	95.5	95.0	91.2	93.6	94.6	94.2	94.1	95.0	95.7	↑	

4-1 健康の大切さ

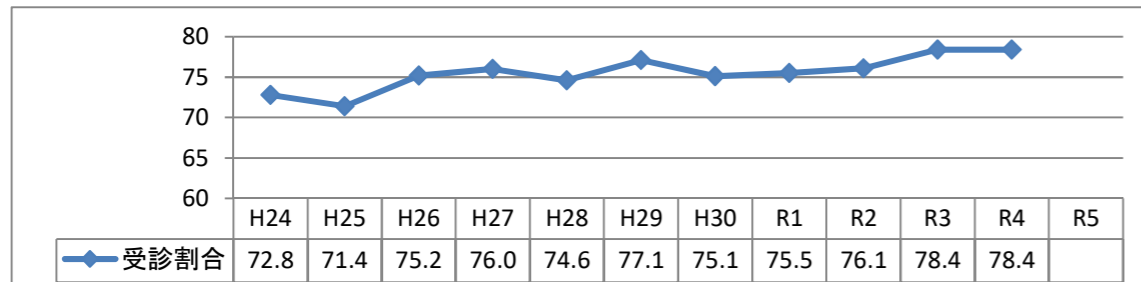
①自分の体をメンテナンスできる人を増やす

① 施策のありたい姿

健康診断をきっかけに自分の生活習慣を振り返り、毎年自分の健診結果を楽しみにしている人が増える。
喫煙習慣がある人が減り、タバコの煙が少ないまちになっている。

② 指標の推移

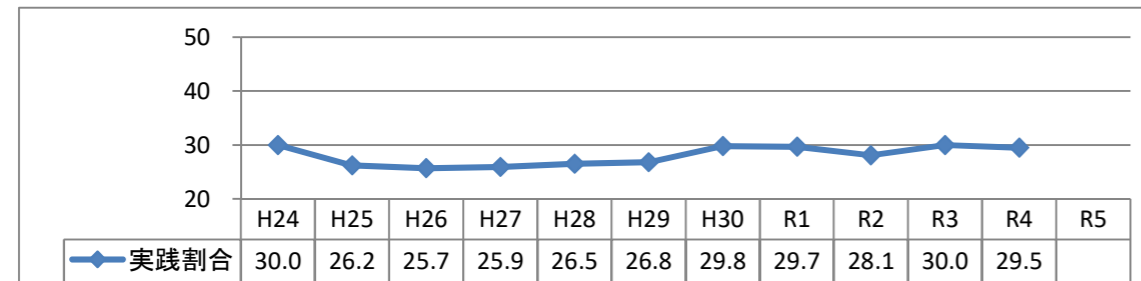
指標3: 年に1回は健康診断を受けている人の割合



○

前年度と同ポイントであり、伸び率は横ばいだが、基準値と比較し増加傾向。男性85.1%(前年度82.6%)で2.5ポイント増加したが、女性は73.6%(前年度75.2%)で1.6ポイント減少した。職業別にみると、自営業、学生及び主婦(家事専業)が低い割合となっている。

指標4: 生活習慣改善に取り組んでいる人の割合



△

前年度から0.5ポイント減少した。生活習慣改善の取組みを継続している人は約3割であるが、近いうちに改善したい及び改善するつもりと答えている人は40.1%おり、生活習慣改善の必要性を感じている人は多い。

④ 推進会議のコメント

⑤ 施策の評価

③ 主な取り組み

項目・プランの方向性	ア) 特定健康診査・特定保健指導の充実
主な事業	対象者に合わせた未受診者対策を実施し、健康診断結果による個別指導を充実させます。 未受診者の特性を人工知能に用いて階層化して受診行動に結びつきやすい内容の受診勧奨通知の送付(業者委託)、周知・啓発(公共施設等へのポスター掲示、広報及びホームページ等)、特定保健指導を市民体育館でも実施
課題・次年度の方向性	未受診者の特性を階層化した上での受診勧奨については継続し、受診率の向上を目指す。また、若い世代から健康診断を受診する習慣を身に付けてもらうため、16歳から39歳までに実施しているフレッシュ健診の周知・啓発に努める。

項目・プランの方向性	イ) 医療機関との連携
主な事業	医療機関と連携し、治療が必要な人への支援や治療中の人の保健指導を行います。 医療が必要な方への受診勧奨、糖尿病悪化予防事業
課題・次年度の方向性	糖尿病悪化予防事業は医療と並行して実施することが効果的であり、事業への参加者が減ってきていることから、医療機関と連携して新規参加者を募り、糖尿病の悪化予防に努める。また、各種健康診査の結果で血圧や血糖に関する値が受診勧奨判定値の者への受診勧奨は継続。

項目・プランの方向性	ウ) 受動喫煙防止の推進
主な事業	全ての人を受動喫煙から守るため、公共施設や職場の禁煙区域を増やします。 広報、メディアスFM放送で市民へ喫煙や受動喫煙の健康被害について啓発。世界禁煙デーに合わせた期間であわせ村、市役所庁舎でポスターの掲示により禁煙の啓発を実施。健康イベントでがん予防のための禁煙を掲示PRした。
課題・次年度の方向性	健康イベントで受動喫煙防止の必要性を啓発

項目・プランの方向性	エ) 青年期の喫煙対策の充実
主な事業	教育機関や企業と連携し、青年期に喫煙習慣を形成しないための知識の普及・啓発を行います。 保健師による健康教育の実施の機会はなかったが、広報・ホームページ等で喫煙対策に関する啓発を行った。
課題・次年度の方向性	中学生への健康教育、イベント等で喫煙における健康被害等の啓発

4-1 健康の大切さ

② 壮年期をがんから守る

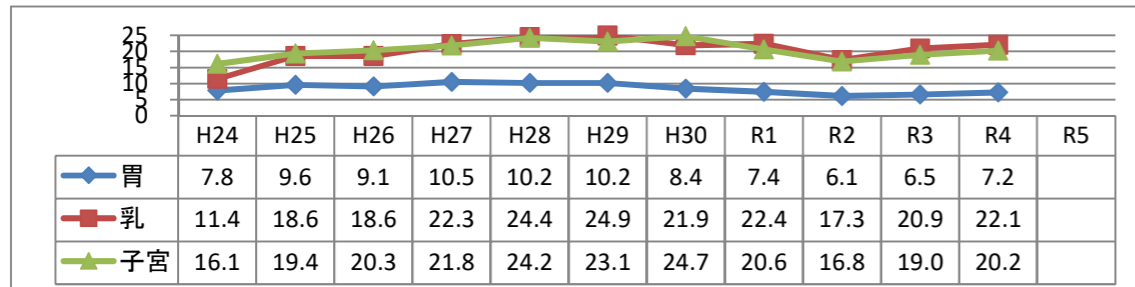


① 施策のありたい姿

がんについて正しい知識を持ち、がん検診を受診している人が増えている。

② 指標の推移

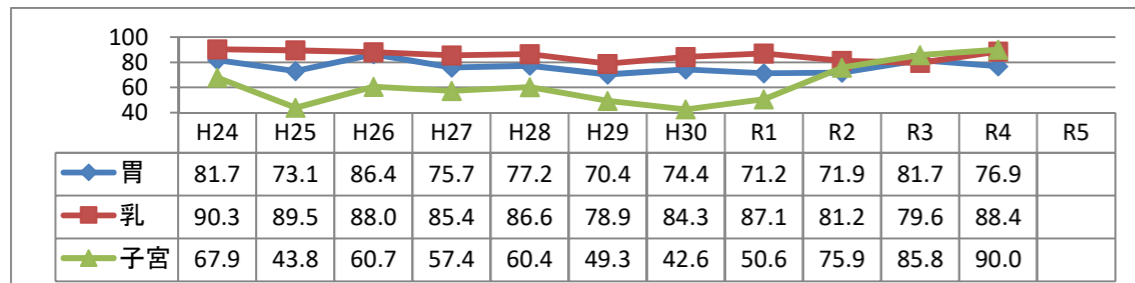
指標5: がん検診受診率



○

昨年度と比較して胃がん検診受診率は0.7ポイントの増、乳がん検診受診率、子宮頸がん検診受診率はともに1.2ポイントの増となり、新型コロナウイルス感染症発生前の受診率まで戻りつつある。胃がんリスク検診の受診率1.9%も含めた胃がん検診全体の受診率は、9.1%となり、昨年度8.2%から0.9ポイント増となった。

指標6: がん精密検査受診率



○

がん精密検査受診率は、胃がん精密検査受診率以外は増加した。29年度(2017年)以降電話勧奨を実施しているが、昨年度は胃がんを除き、乳がん、子宮がん精密検査受診率は大きく増加している。

④ 推進会議のコメント

⑤ 施策の評価

③ 主な取り組み

項目・プランの方向性	ア) がんについての情報提供
主な事業	若い人や働く世代のがん予防への関心を高めるため、母子保健等の事業や企業、各種団体と連携して、がんに対する正しい知識や検診の必要性などの情報を提供します。
課題・次年度の方向性	しあわせ村で乳がん予防の啓発のための掲示を実施。全国健康保険協会愛知支部(協会けんぽ)と連携し、特定健診未受診者勧奨通知に市がん検診の受診勧奨案内の同封を行った。また、第一生命と連携して、本市がん検診の周知及びアンケート調査を実施した。

項目・プランの方向性	イ) 受診しやすいがん検診の整備
主な事業	子育て中の人や働く人など、多様なライフスタイルの人が受診しやすいがん検診の体制を整備します。
課題・次年度の方向性	個別医療機関での検診受診の啓発の継続、土日の集団検診の実施や子宮頸がん集団検診における保育士による託児の実施

項目・プランの方向性	ウ) がん検診フォローアップの充実
主な事業	検診結果をわかりやすくフィードバックし、精密検査が必要な人への相談や受診勧奨を充実させます。
課題・次年度の方向性	精密検査の対象者へ検査可能な医療機関の一覧を作成し送付することで受診へつなげる。一次検診実施医療機関へ二次検診(精密検査)受診結果の情報提供を行い、一次検診の精度向上を図る。子宮頸がん検診は、壮年期への電話勧奨を継続して行う。



4-1 健康の大切さ

③おいしく食べ、おもいきり笑えるお口をつくる

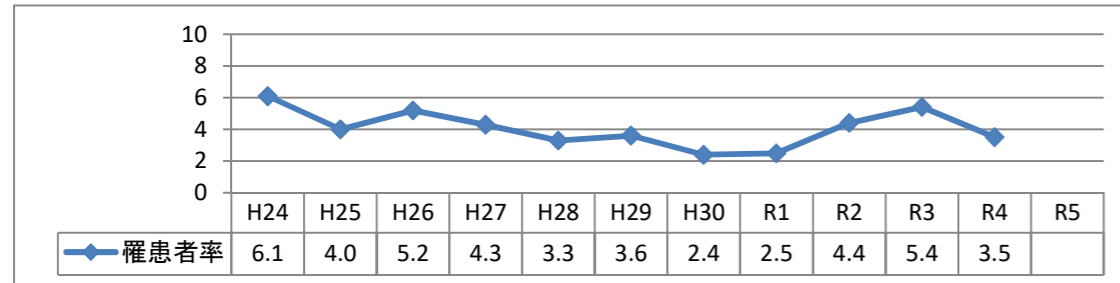


① 施策のありたい姿

歯を大切にする生活習慣が身につき、いつまでもかめる歯とおもいきり笑えるお口を持つ人が増えている。

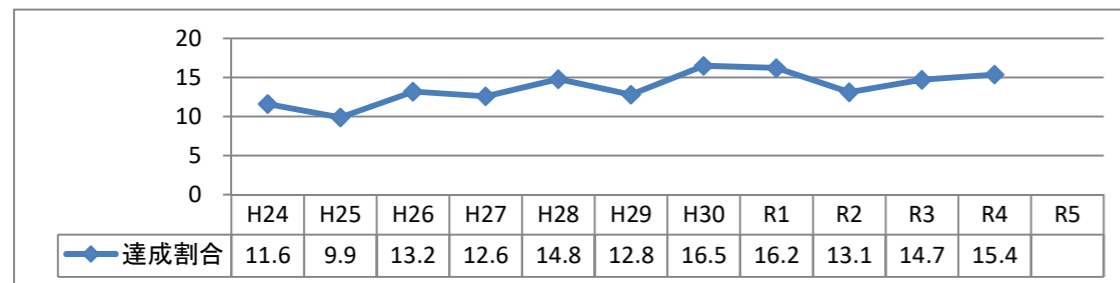
② 指標の推移

指標7: 中学生の歯肉炎の罹患率



△ コロナの影響で上昇傾向だったが、令和4年度は罹患率は減少した。規則正しい生活習慣が整いつつあることが窺える。間食等の食生活や歯みがき等、生活習慣の乱れは歯肉炎として口腔内に現れるとして、規則正しい生活を送ることの大切さも健康教育内容に盛り込む。

指標8: 8020達成者割合



○ 横ばい状況だが基準値と比較するとやや増加している。国の達成度50%には及ばない。80歳到達者に8020応募案内通知を発送しているが、コロナ感染が心配で受診控えした方に翌年度以降の応募も可能であるPRが必要と考える。

④ 推進会議のコメント

⑤ 施策の評価

③ 主な取り組み

項目・プランの方向性	ア) むし歯予防対策
主な事業	幼児のフッ化物塗布及び保育園・幼稚園、小学生のフッ化物洗口の取り組みと、食後の歯みがきの習慣化に取り組みます。
課題・次年度の方向性	フッ化物洗口実施調査にて保育園は全園、幼稚園は2園、小学校は4校で通年実施していた。未実施の小学校等にも調査に出向き、意向を聞きながらいつでも開始できるよう準備を重ねた。年度末には新年度から実施する連絡がいくつかあり、未実施の小学校等には、問題を解決できるように引き続き支援していく。

項目・プランの方向性	イ) 歯周病対策
主な事業	学校や企業での健康教育に取り組み、かかりつけ歯科医を持つ人を増やします。また、受診率向上を目指し、受けやすい歯周疾患検診に取り組みます。
課題・次年度の方向性	フレッシュ歯周病検診は、3年度の受診率9.9%から4年度は7.4%に下がった。県が作成した若い世代向けの歯科検診受診啓発ちらしを成人式で配布した。また、中学生の歯肉炎罹患率が多いため、小学校高学年・中学校から健康教育の依頼があった場合は、歯周病予防の内容を盛り込んでいる。

項目・プランの方向性	ウ) 健口体操の普及・啓発
主な事業	筋肉の衰えや唾液の減少から口腔機能が低下しないよう、健口体操を市内全地域で普及させます。
課題・次年度の方向性	介護予防教室、訪問型介護予防教室、高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施
課題・次年度の方向性	地域での活動が、感染予防策を講じながら予定通り行われた。マスク着用の方もいるため、分かりやすく、継続してもらえる健口体操を行う。訪問型介護予防事業では、かかりつけ歯科はあるが、口の機能の困りごとが多い方が多く、利用者が増えている。

項目・プランの方向性	エ) 歯科保健に係る多職種連携
主な事業	在宅要介護者や障害者などの通院等が困難な人の歯やお口の健康を支援するため、施設職員や歯科医師などの多職種が連携できる仕組みをつくります。
課題・次年度の方向性	通所施設障害者歯科健診は、施設1件の辞退以外は順調だが、治療勧告までできていない。自立型支援会議では、ケース報告に歯科の受診状況が把握されていない場合が多い。高齢者支援課の口腔チェック10点リストから依頼を受け、歯科衛生士が訪問し在宅支援事業所、歯科医院との連携を進めているが、件数が少ない。

4-2
運動・身体活動

①体を動かすことの楽しさを知る機会を増やす



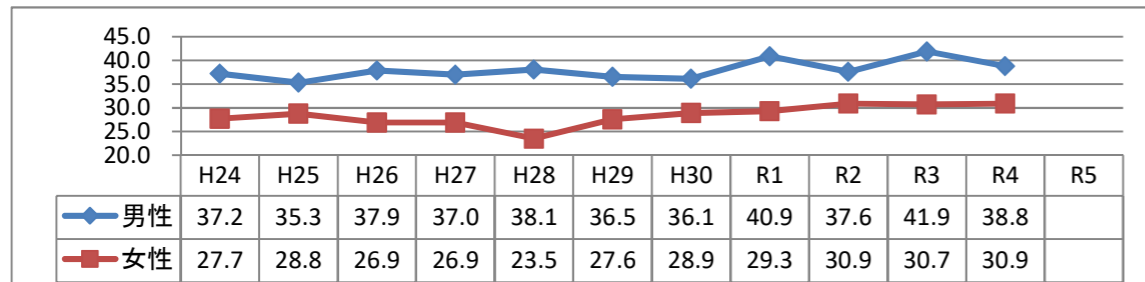
① 施策のありたい姿

ウォーキングイベントなどをきっかけに、体を動かすことを楽しみながら生活の中に取り入れている人が増えている。



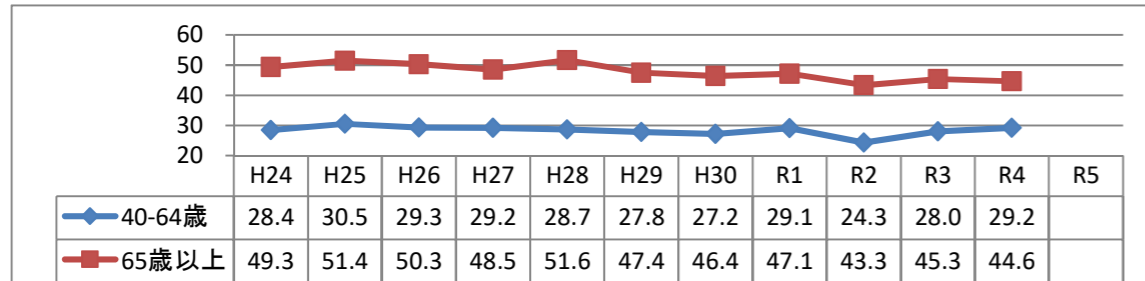
② 指標の推移

指標9:健康づくりでウォーキングなどの運動に取り組んでいる人の割合



○ 男性は前年度から3.1ポイント減少したが、年度毎に変動がみられている。女性は前年度から0.2ポイント改善し、基準値から3.0ポイント改善を維持している。年齢別では、16～19歳と前期高齢者で減少しており、16～19歳では2年連続で減少している。20代では改善し過去最高値となった。

指標10:1回30分以上の運動を週2回以上1年以上実施している人の割合



△ 昨年度から、ほぼ横ばいだが、40～64歳は2年連続して増加している。基準値と比較すると65歳以上は減少している。

④ 推進会議のコメント

⑤ 施策の評価

③ 主な取り組み

項目・プランの方向性	ア) 情報提供の充実
主な事業	市や各種団体が実施しているウォーキングや、ニュースポーツなどのイベント情報をとりまとめ、年代やライフスタイルに合わせた情報提供を進めます。
課題・次年度の方向性	参加者は高齢者が多く、リピーターも多いため、コースや距離を見直していく。子どものいる家族層にとっても運動ができる機会となるよう開催日時や、周知に工夫を図る。

項目・プランの方向性	イ) 運動応援メニュー提供事業
主な事業	運動に関心をもった人が具体的に行動できるように、対面による運動・食生活応援メニューの提供の場を増やします。
課題・次年度の方向性	しあわせ村トレーニング室や市民体育館、事業所等への健康づくりに関する出前講座等で運動・食生活応援メニューを提供。(1,095件)
課題・次年度の方向性	市民体育館での応援メニュー提供件数が減少しているため、応援メニュー判定事業についてのチラシを作成し、配布した。広くチラシを配布するとともに、特定健診結果報告書での情報提供を継続していく。より働く世代に活用してもらえるよう引き続き市内事業所、全国健康保険協会愛知支部と連携・協力していく。

項目・プランの方向性	ウ) ウォーキングの推進
主な事業	歩きたくなるウォーキングマップや魅力あるイベントをととして、ウォーキングに取り組む人を増やします。
課題・次年度の方向性	シニア健康スポーツフェスティバルのウォーキング東海を始めとした東海市健康づくりリーダー連絡協議会・東海ライオンズクラブ等によるウォーキングイベントを実施(7団体11イベントに1,114人が参加)し、5イベント参加した方にへいしゅうくんのオリジナルピンバッジをプレゼント。
課題・次年度の方向性	高齢者へのアプローチとして、「高齢者とうかい健康チャレンジ」事業を通じ、県のスマートフォンアプリ「あいち健康プラス」を活用して、手軽な運動であるウォーキングに取り組む人を増やす。子どものいる家族層の参加を図るため、中学生以下に特典を付ける。



4-2
運動・身体活動

② 運動に取り組みやすい場を充実する

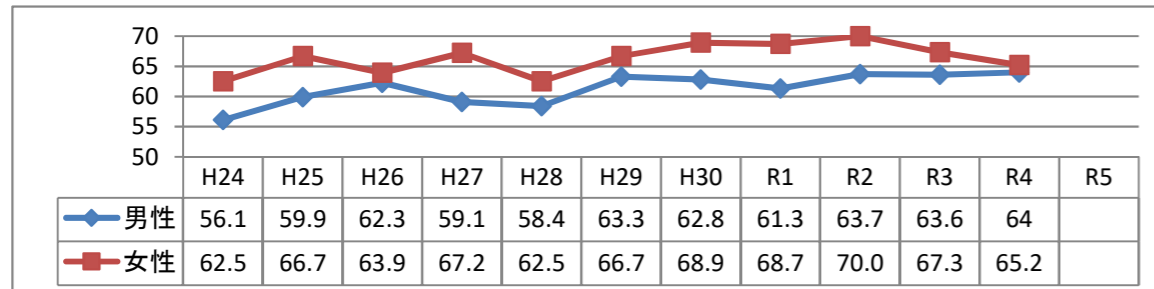


① 施策のありたい姿

運動習慣がない人も「運動をしてみよう」と思え、運動習慣が自然に身に付く環境が整っている。

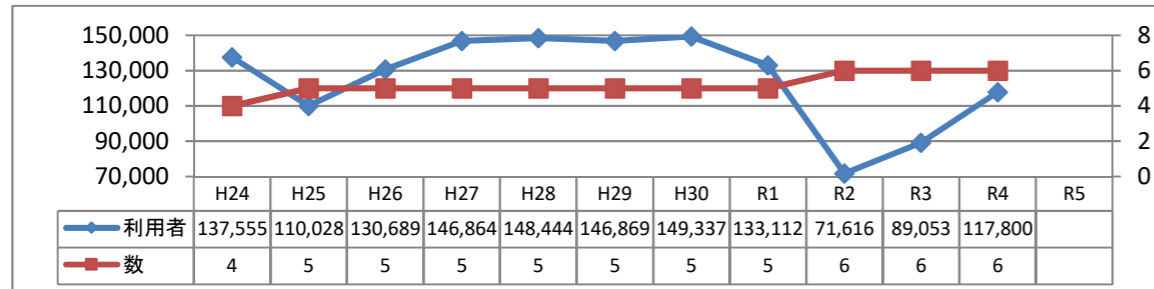
② 指標の推移

指標11: 市内の施設や環境が健康づくりに取り組みやすいと感じている人の割合



○ 男性は基準値から7.9ポイント改善しており、順調に推移している。女性は2年連続減少。年齢別では、前期高齢者で減少しており、10代、20代、壮年期で増加傾向。職業別では、学生が75.3%と最も高い結果だった。これは市内商業高校と連携して健康づくりの啓発等に取り組んだことによるものと考えられる。

指標12: 運動ステーションの数と利用者数



△ 新型コロナウイルス感染症の影響により利用者数が大きく落ち込んだ令和2年度及び3年度からは改善したが、基準値までは回復していない状況である。利用可能者数の緩和等の周知を行い、利用者数の増加を図っていく。

④ 推進会議のコメント

⑤ 施策の評価

③ 主な取り組み

項目・プランの方向性	ア) トレーニング場所の充実・整備事業
運動習慣のない人が入りやすく使いやすいトレーニング室の充実と、増加する利用者に合わせた場所の拡充を進めます。	
主な事業	しあわせ村トレーニング室に健康運動指導士を配置して運動に関するアドバイス、高齢者健康づくり事業(コパンスポーツクラブ東海の利用料金の一部補助)を実施
課題・次年度の方向性	しあわせ村トレーニング室では医療機関と連携してリスク保有者やこれまで運動習慣がなかった方でも安心して運動できる環境づくりを推進する。また、コパンスポーツクラブ東海を利用する高齢者に対して利用料金の一部を補助する。

項目・プランの方向性	イ) 歩道やウォーキングコース(ペース体感ゾーン)の整備・活用事業
足首や膝に負担が少なく、安全で歩きやすい歩道や、ウォーキングコースの整備と利用促進を図ります。	
主な事業	市内公園施設や加木屋緑地を活用したウォーキングイベントの実施
課題・次年度の方向性	緑の中で、景色を楽しみながらクロスカントリーコースで健康づくりやトレーニングができる加木屋緑地や、市内公園施設を活用し、個人の健康状態や体力に合ったウォーキングのペースが確認できるウォーキングペース体感ゾーンの利用を推進する。

項目・プランの方向性	ウ) 仲間と取り組む運動場所の充実・整備事業
高齢者が仲間とともに継続的に体を動かし活動できるよう、グラウンド・ゴルフ場などを整備します。	
主な事業	グラウンドゴルフ場の利用促進(荒尾グラウンドゴルフ場 R4年度利用者数10,299人)
課題・次年度の方向性	荒尾グラウンドゴルフ場の利用者数は、新型コロナウイルス感染症の影響のあった前年度に比べ約470人増加した。引き続き、施設の利用促進を図る。

項目・プランの方向性	エ) 各種運動教室の連携事業
公民館など身近なところで参加できる運動教室を充実します。運動の強さをわかりやすく示すなど、自分に合った運動教室が選べる仕組みを作ります。	
主な事業	公民館・市民館でゴムバンド体操、ストレッチ、ヨガ等の運動教室を実施。高齢者が運動をできる場の情報提供として、市民館公民館、健康交流の家等で実施しているゴムバンド体操、おもりを使った百歳体操の一覧表を作成。
課題・次年度の方向性	各機関が実施している運動教室について、個人の希望に合った運動(教室型、個別型等)の情報提供方法について関係課等と検討する。

4-2
運動・身体活動

③グループ(企業・団体)活動を推進する



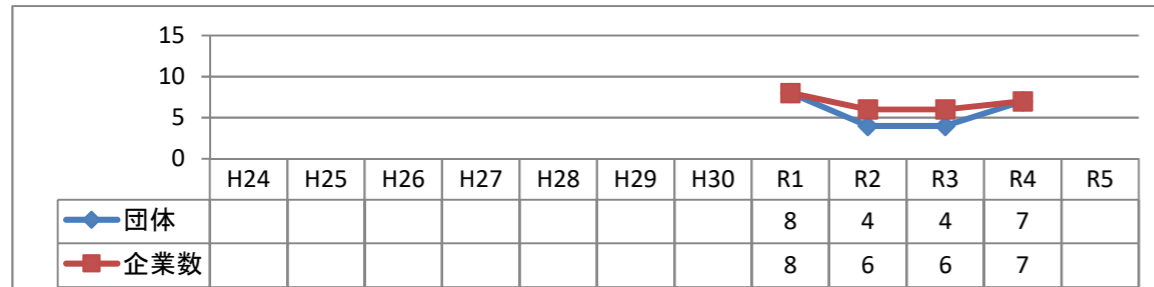
① 施策のありたい姿

企業や市民団体の特性を生かした健康づくりに関する取り組みが活発に行われている



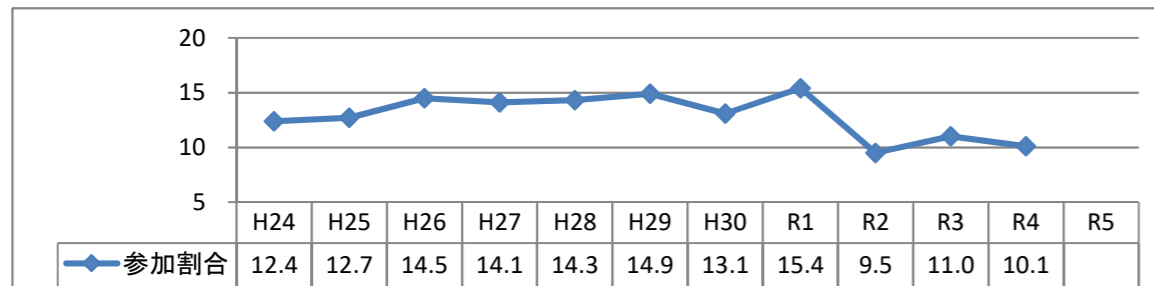
② 指標の推移

指標13:市と連携して健康づくりに取り組む市民団体・企業数



みんなでウォーキングは7団体と連携して実施した。また、7企業と連携して従業員の健康づくりに取り組む出前講座やいきいき元気キャンペーン等を実施した。引き続き、市民団体・企業と連携して高齢者だけでなく働き盛り世代に対する健康づくりのきっかけづくりや継続した取り組みを支援する。

指標14:1年間に地域や会社のウォーキングイベントや健康教室に参加したことがある人の割合



前年度との比較では0.9ポイント減少した。年齢別では、16～19歳、30代、40代で増加がみられるが、その他の世代では減少した。職業別では、主婦層に大きく減少がみられた。

④ 推進会議のコメント

⑤ 施策の評価

③ 主な取り組み

項目・プランの方向性	ア) 市民団体との連携事業
健康づくりに取り組む市民団体との連携を進め、地域での健康づくり活動を活性化します。	
主な事業	東海市健康づくりリーダー連絡協議会・東海ライオンズクラブ等によるウォーキングイベント(7団体11イベントに1,114人が参加、103人にへいしゅうくんオリジナルピンバッチをプレゼント)
課題・次年度の方向性	健康づくりに取り組む市民団体におけるメンバーの高齢化が進むとともに、新たな担い手も少ない状況であることから、いきいき元気フェスティバルやみんなでウォーキングを通じて、健康づくりに取り組む人を増やし市民団体への参加を促す。

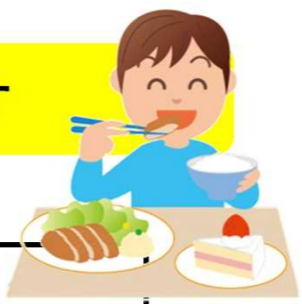
項目・プランの方向性	イ) 企業の活動支援事業
事業主や担当者の健康への関心を高めるための取り組みを進めます。また、従業員の健康づくりを進める企業の活動を支援します。	
主な事業	いきいき元気キャンペーン(5社4,095人参加)、出張判定・健康教育(7社)
課題・次年度の方向性	健康づくりや健康診断を受ける人の割合は年代が下がるにつれて低い傾向にあるため、協会けんぽや商工会議所と連携を図り中小企業の健康経営の取組を支援し、若い時期からの生活習慣病の予防を推進していく。

項目・プランの方向性	ウ) サークル活動応援事業
おもりの体操やゴムバンド体操など、健康づくりを自主的に取り組む市民のサークル活動を支援します。	
主な事業	地域で活動している団体に対し、体力チェックや健康教育、健康相談等を実施。脳トレいきいき百歳応援事業
課題・次年度の方向性	地区活動の担い手の高齢化が進み解散する団体も少なくないことから、壮年期から地域との関わりを持てるような支援策について関係団体等と検討していく。また、地縁に頼らなくても活動できる事業の実施。



4-3 食生活

①適量やバランスを意識する機会を増やす

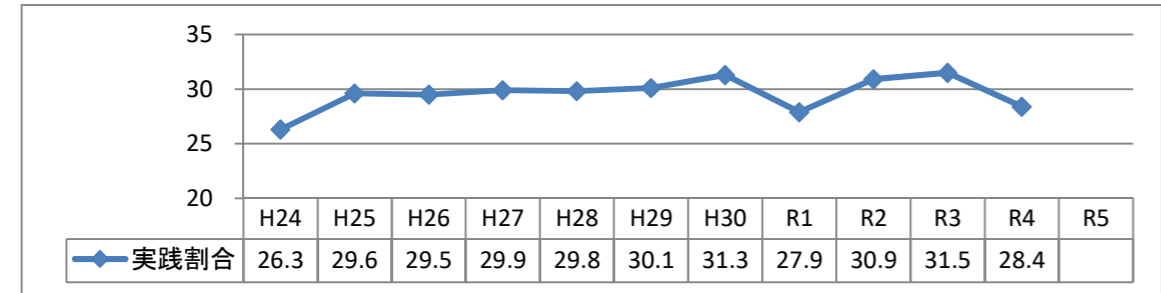


① 施策のありたい姿

身近に食事量やバランスを意識できる機会があり、自分に合った食生活を送っている人が増えている。

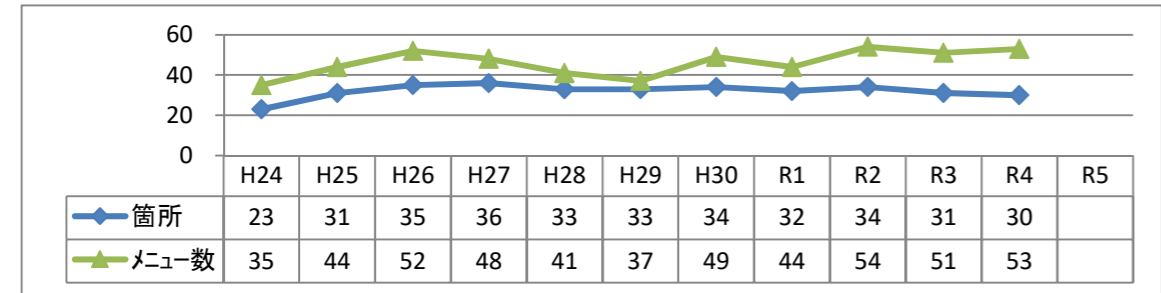
② 指標の推移

指標15: 健康づくりで食事の量やバランスなど食生活の改善に取り組んでいる人の割合



○ 前年度との比較では3.1ポイント悪化し、男女とも悪化した。年齢別では、16～19歳では17.9ポイント、30～39歳で6.9ポイント改善し、若い世代で改善傾向であった。しかし65歳以上はポイント数が悪化したことから、コロナ禍での活動自粛等の影響があったと考えられる。

指標16: 食生活ステーションの数および提供メニュー数



○ 食生活ステーションの数は、廃業及び経営者都合により2店舗減少したが、新規店舗の認定を行い1店舗増加したため、差引き1箇所の減少となった。新型コロナウイルスの影響で低調となった外食需要を呼び戻し、認定店舗の拡大を図る。

④ 推進会議のコメント

⑤ 施策の評価

③ 主な取り組み

項目・プランの方向性	ア) 食の正しい知識・情報の啓発(知育) 食生活応援メニューの提供やいきいき元気メニューのレシピを活用し、食の正しい知識や適量・バランスなどの情報提供を進めます。
主な事業	新型コロナウイルス感染予防のため、公民館等での調理実習は感染対策を徹底し定員より人数を減らすなどして再開した。離乳食講習会はオンラインと来所併用で行い参加者が選択できるように環境を整備した。その他クックパッド、料理動画や知多メディアス、広報を活用して食の情報発信した。
課題・次年度の方向性	料理教室等を再開する。可能な教室は対面や料理を教材とした体験ができる事業を実施するとともに、オンラインを併用しながら食の情報発信を行っていく。

項目・プランの方向性	イ) いきいき元気メニューの開発・普及(徳育) 東海商工会議所や市内の飲食店、また大学や企業などとの連携を進め、いきいき元気メニューの開発・普及を進めます。
主な事業	食生活ステーションとの連携(30店舗)
課題・次年度の方向性	食生活ステーションの数及び提供メニュー数は横ばい傾向である。食生活ステーションの増加に努め、健康応援ステーションの認知度向上を図り啓発を進めていく。

項目・プランの方向性	ウ) トマトを使った健康づくりの推進(徳育) トマトの苗の配布やトマトの日(毎月10日)の取り組みを進め、地域や小学校などでの食育を進めます。また、トマトを使った健康メニューの開発や食の活動拠点の整備を進めます。
主な事業	トマト苗の配布は再開できたが、収穫祭の料理教室は2件だった。トマトde健康フェスティバルは5,494食(R3 5,985食)を販売。マックスバリュー東海店の参加もあり、持ち帰り弁当でもトマトメニューを提供した。トマト給食コンテスト入賞作品をとまと記念館で提供した。また、小学校でのトマト出前授業を実施した。
課題・次年度の方向性	マックスバリュー東海店にて、今年度もトマトde健康フェスティバルのメニューとして、引き続き持ち帰り弁当をメニューとして提供していく。小学校でのトマトや野菜に関する出前授業や、給食レシピコンテストを実施する。

項目・プランの方向性	エ) 食生活改善推進員の人材育成・活動支援(徳育) 地域において、食の正しい知識の普及や取り組みを進める食生活改善推進員の育成と活動を支援します。
主な事業	新型コロナウイルス感染予防のため、公民館・市民館等の料理教室は定員縮小しながら実施した。ヘルスメイト養成講座は定員を縮小し実施。12名参加した。感染予防対策を行いながら食改の生涯教育、活動を実施した。
課題・次年度の方向性	新型コロナウイルス感染症拡大防止の為、昨年度は養成講座の定員を縮小し、実施したが、今年度は定員を20名として実施予定。他の協議会との交流会等を企画するなど、少しずつもとの活動にシフトしていく。

4-4
ふれあい

① 交流の場・活動の場を充実する

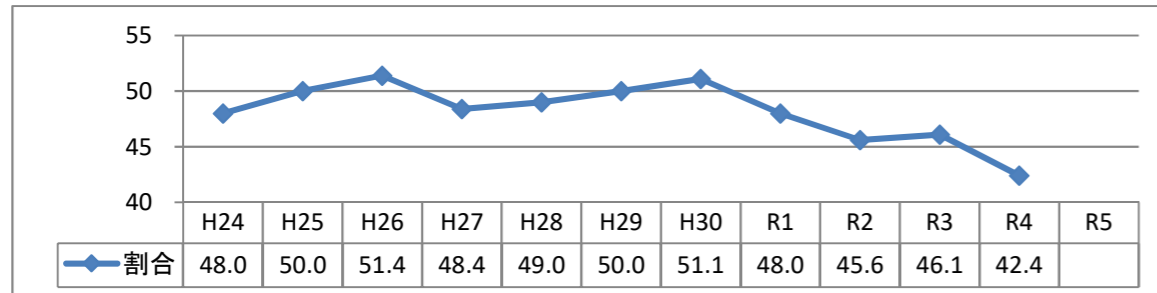


① 施策のありたい姿

幼少期から高齢者までのすべての人が人とのつながりの場を持ち、人生を楽しみながら生涯現役で過ごしている。

② 指標の推移

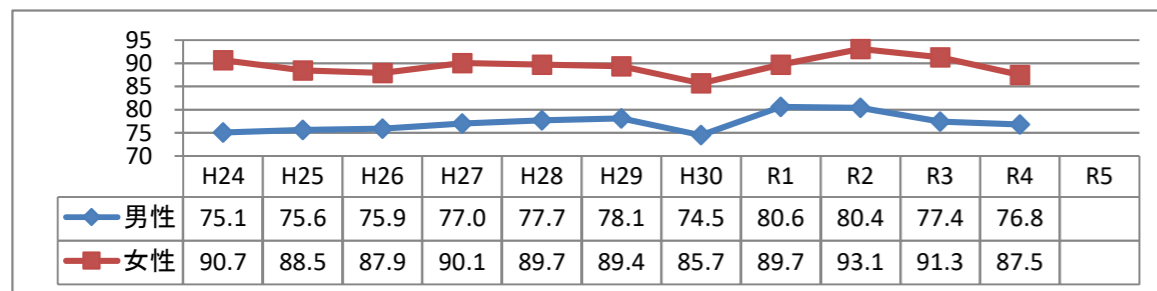
指標17: 地域活動や市民活動を身近に感じている人の割合



×

前年度比3.7ポイント減少している。年齢別では全体的に減少しているが、30代、40代の子育て世代では増加している。

指標18: 困った時に悩みを相談できる人が身近にいる人の割合



△

前年度比、男性0.6ポイント、女性3.8ポイントと男性・女性共に相談できる人が身近にいる人の割合が低下した。男女とも2年連続低下した。引き続き相談につながるような交流の場づくり等の工夫が必要である。

④ 推進会議のコメント

⑤ 施策の評価

③ 主な取り組み

項目・プランの方向性	ア) 情報の一元化と情報発信
主な事業	活動情報の集約と情報発信を行い、自分にあった地域の交流や活動の場に参加しやすい仕組みづくりに取り組みます。
課題・次年度の方向性	介護予防啓発研修会を実施(74名参加)。また、生活支援体制整備事業の第2層協議体でインフォーマルな活動情報も含めて、第2層に設置された生活支援コーディネーターを中心に協議体メンバー同士で情報を共有・集約した。また、随時面談等による個別相談にて自分にあった地域の交流や活動の場を提案。
課題・次年度の方向性	引き続き、インフォーマルな活動情報も含めて、第2層に設置された生活支援コーディネーターを中心に協議体メンバー同士で情報を共有・集約し、交流・活動できる場の情報発信を工夫していく。

項目・プランの方向性	イ) 担い手の育成・交流促進
主な事業	専門家による支援を進め、地域で生活する退職者を活動の担い手として育成します。団体同士の交流の機会をつくり、活動の活性化を図ります。
課題・次年度の方向性	ボランティア養成講座では、百歳体操サポーターが12名養成された。修了者が地域活動の担っていくには、まだ人材が少なく、養成講座の情報発信や、担い手への継続的なサポートは課題である。

項目・プランの方向性	ウ) 交流・活動の場の充実
主な事業	地域の健康課題や特性を分析し、運動や会食など地域にあったメニュー開発を進め、交流や活動の場を充実します。
課題・次年度の方向性	いきいき百歳体操(33団体)R4新規立ち上げなし 健康教育(64回、1,212人) 地域介護予防活動支援事業(専門職の派遣100回、1,199人)
課題・次年度の方向性	いきいき百歳体操事業では、参加者の高齢化で人数の減少から継続が難しい団体もあり、活動の継続的サポートが必要である。通いの場の活性化と低栄養予防として健康支援配食サービス事業、世話役を地縁に頼らず身近で参加しやすい運動のできる場として高齢者元気アップ教室を新規事業として予定している。



4-5
次世代の健康

①規則正しい生活習慣を身につける

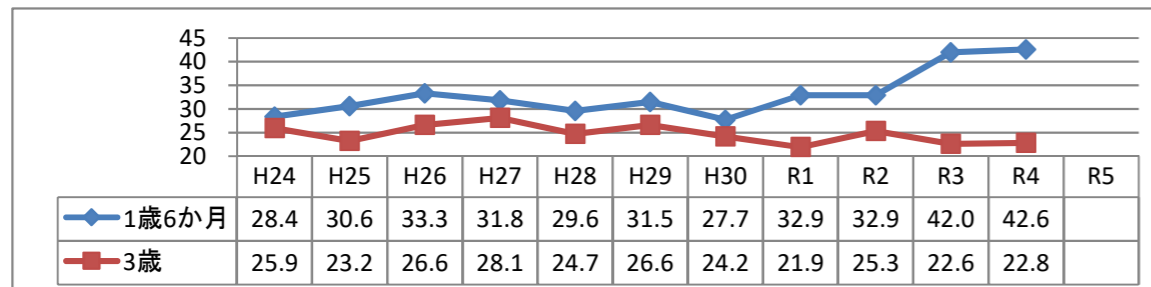


① 施策のありたい姿

「運動」、「食事」、「睡眠」といった生活サイクルが整っている。

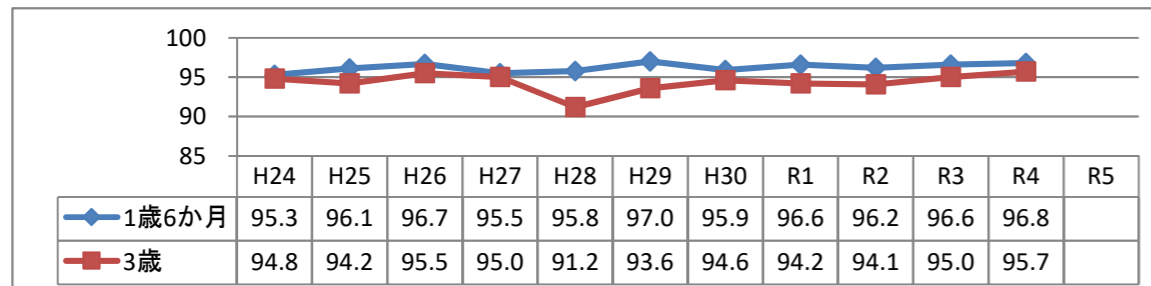
② 指標の推移

指標19:午後9時前に就寝する幼児の割合



△ 1歳6か月児は前年より0.6ポイント改善したが、3歳児は前年より0.2ポイント悪化し、全体としては横ばいである。年齢が上がると就寝時間が遅くなる傾向があるため、3歳児健診等の機会に啓発が必要である。

指標20:朝食を食べている幼児の割合



○ 1歳6か月児は前年比0.2ポイント、3歳児は0.7ポイント改善しており、順調に推移している。朝食を毎日食べていない幼児は、就寝時間も遅い傾向があるため、生活全体の改善にむけて個別指導を充実する必要がある。

④ 推進会議のコメント

⑤ 施策の評価

③ 主な取り組み

項目・プランの方向性	ア) 情報提供と相談体制の充実
項目・プランの方向性	子育ての悩みや不安が解消でき、保護者の具体的な行動の支援につながる情報提供や相談体制の充実を図ります。
主な事業	妊娠出産包括支援事業、母親教室(両親学級)、赤ちゃん相談、育児妊婦相談、ふきのとう教室、すこやか健診、乳児健康診査、1歳6か月児健康診査、3歳児健康診査、2歳児すくすく教室、は・ハ・歯の教室
課題・次年度の方向性	引き続き、妊娠期から生活サイクルの重要性について啓発を行うとともに、健診、相談場面では多様なライフスタイルに配慮しながら、個別の状況に合わせ、具体的な周知を図る。

項目・プランの方向性	イ) 実践学習の場の整備
項目・プランの方向性	子どもに関する教室等の事業において、参加者同士が学び会える体験型の取り組みを進めます。
主な事業	妊娠出産包括支援事業、母親教室、育児妊婦相談、ベビーサロン、ふきのとう教室、すこやか健診、乳児健康診査、1歳6か月児健康診査、3歳児健康診査、2歳児すくすく教室、は・ハ・歯の教室、離乳食講習会
課題・次年度の方向性	感染拡大防止の観点から実施していたオンラインの活用やベビーサロンなどの触れ合いを通じた参加しやすい学習機会の提供に努める。

項目・プランの方向性	ウ) データの共有と連携体制の整備
項目・プランの方向性	幼稚園、保育園、小中学校などの関係機関と子どもの健康に関するデータの共有化を進めます。また、子どもの成長に合わせた支援ができるよう、関係機関の連携体制づくりを進めます。
主な事業	利用者支援事業連携調整会議、発達支援連携会議、自立支援協議会こども部会(医療的ケア児に関することを含む)、健診情報一元化に関する取組
課題・次年度の方向性	PHR(乳幼児期から小中学校の健康診断の結果の連携記録)アプリを用いた本人への情報還元をすすめるとともに、国が進めるマイナンバーを用いた健診データの一元活用について取り組む。



東海市健康づくり推進会議設置要綱

(設置)

第1条 市民が心豊かな人間性を育み、健康で生き生きとした人生を過ごすための東海市健康増進計画を推進するために、東海市健康づくり推進会議（以下「推進会議」という。）を置く。

(組織)

第2条 推進会議は、24人以内の委員をもって組織する。

2 委員は、市長が次に掲げる者のうちから委嘱し、又は任命する。

- (1) 学識経験を有する者
- (2) 保健医療関係団体を代表する者
- (3) 地域団体及び福祉団体等を代表する者
- (4) 経済団体を代表する者
- (5) 職域関係を代表する者
- (6) 教育関係を代表する者
- (7) 県の職員
- (8) 市内に住所を有する者
- (9) 市の職員

(会長)

第3条 推進会議に会長を置き、委員の互選により定める。

2 会長は、会務を総理し、会議の議長となる。

3 会長に事故があるとき又は会長が欠けたときは、あらかじめ会長の指名する委員がその職務を代理する。

(任期)

第4条 委員の任期は2年とする。ただし、委員が欠けた場合における補欠の委員の任期は前任者の残任期間とする。

(会議)

第5条 推進会議は、会長が招集する。

2 推進会議は、委員の半数以上が出席しなければ、会議を開くことができない。

(専門部会)

第6条 推進会議に、計画に関する事項について、より専門的かつ具体的な仕組みづくりを進めるため専門部会を置くことができる。

2 部会員は、市及び関係団体より推薦を受け、組織する。

(ワーキング部会)

第7条 推進会議に、計画に関する事項の企画及び推進を補助するためのワーキング部会を置くことができる。

2 部会員は、市及び関係する部局並びに機関より推薦を受け、組織する。

(庶務)

第8条 推進会議の庶務は、市民福祉部健康推進課において処理する。

(雑則)

第9条 この要綱の定めるもののほか、推進会議の運営について必要な事項は、会長が定める。

附 則

1 この要綱は、平成18年6月1日から施行する。

2 この要綱の施行の日以後最初に委嘱される委員の任期は、第5条の規定にかかわらず、平成19年3月31日までとする。

附 則

この要綱は、平成19年4月1日から施行する。

附 則

1 この要綱は、平成20年4月1日から施行する。

2 この要綱の施行の日以後最初に委嘱される委員の任期は、第5条の規定にかかわらず、平成22年3月31日までとする。

附 則

この要綱は、平成22年4月1日から施行する。

附 則

1 この要綱は、平成23年4月1日から施行する。

2 この要綱の施行の日以後最初に委嘱される委員の任期は、第5条の規定にかかわらず、平成24年3月31日までとする。

附 則

この要綱は、平成24年4月1日から施行する。

附 則

1 この要綱は、平成25年6月1日から施行する。

2 この要綱の施行の日以後最初に委嘱される委員の任期は、第4条の規定にかかわらず、平成26年3月31日までとする。

附 則

この要綱は、平成26年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成27年7月1日から施行する。

附 則

この要綱は、令和5年7月1日から施行する。